

上映会「わたし、生きてていいのかな」

児童虐待と社会的養護を受けて育つ子どもたちを描く映画

※映画製作チーム「SunShine」のホームページより
<http://sunshine-movie.com/kamisama/>

わたし、生きてていいのかな

児童虐待・社会的養護の背景と家族の再生

【映画の概要】

現在「乳児院」「児童養護施設」「子どものシェルター」「自立援助ホーム」などで、社会的養護を受けて暮らす子どもの数は4万7000人以上。

子どもを取り巻く状況は、年々厳しさを増しているようにも感じます。

それなのに、そこで暮らす当事者である子どもたちの声、施設側のスタッフの声、施設を出て社会で暮らす人たちの声が、私たちに届くことが少ないのが現状です。

この映画は、社会的養護の背景と現状を描いています。



【開催概要】

日時：2018年2月3日（土）

鑑賞料：無料

<1部>上映会 13:30~15:15 <2部>ワークショップ 15:30~16:30

場所：エフピコRiM9階 スカイホール スタジオB （広島県福山市西町1-1-1）

対象：児童養護施設や里親家庭等の出身者・支援者・関係者・その他関心のある方どなたでも

定員：60名 申込〆切：2018年1月31日（水）

1部上映会

（受付開始 13:00）

13:30~15:15

上映会だけのご参加も可能です

休憩

15:15

~

15:30

2部ワークショップ

15:30~16:30

映画の感想を共有したり
お題に沿ってトークします

【当日の流れ】 この上映会を、広く社会的養護について考える機会にしたいとの思いから、ワークショップを企画しました。是非ご参加いただければと思います。

問合せ先：退所児童等アフターケア事業所「カモミール」 TEL 084-959-3278

お電話かカモミールのホームページからお申し込みください

<http://hiroshima-chamomile.jp/>



【映画「わたし、生きてていいのかな」を見た方の感想】

- 完成した映画を拝見し、涙があふれてしまいました。作品では、虐待された子どもの苦しみはもちろん、虐待をしてしまった親の苦しみにも光を当てておられて、「虐待親」と呼ばれる方々とお会いすることが仕事柄少なくない私としては、救われた思いがしました。ただ「虐待はダメ」と言うだけでは解決しない問題だと思しますので、社会として、個人として、何かできれば良いなあと思います。(Y様)
- 5年の歳月をかけて作成したことにまず驚きました。
映画の後ろに膨大な映像があることと推察します。それから、映画のトーンが淡々としているところが良いです。どうしても暗くなりがちなテーマなのですが、凄く上手く削っていると感じました。シェルターに入るくだりが、少し解りづらかったと思います。機会があれば、1人でも多くの人に紹介するように心がけます。(K様)
- 社会的養護の問題提起など、大切な問題が盛り込まれつつ、主人公の女性の清々しく真摯なあり方が、観ている方に共感や暖かい気持ちを持たせると感じました。
難しく、心の痛くなるような現実であっても、その伝え方は、観ている人の心に、共感を響かせるものであることが大切だと思います。そういう意味で、この映画は、ぜひ多くの方に触れていただきたいと思いました。(U様)
- たくさんの事例から選択してまとめ上げるのは、大変な作業だったことと思いました。
子どもに知って欲しいシステムですが、まずは教師など大人が知るべき事、見るべき映画だと思います。(O様)
- 私は、昨今の報道や社会的養護の偏った意見に、ほんの少し疑問を感じています。
例えば、児相や施設内の対応の至らなさ、みたいな視点です。
家族に対して後方支援をしてくださったり、チームや連携の力で家族の再統合に尽力していらっしゃる様々な方たちが、どんな立場で関わっているのか、はリアルに理解して頂けないでいると感じています。
その点この映画は、虐待をしてしまうに至った大人のこころ、家族の心理的葛藤、壊れてもそのままではないよ、かたちを変えながら、家族も再形成できるはずだよと、エールを送る形で描かれている点に共感しました。様々な立場の多くの方がこの映画に触れ、虐待や社会的養護は、子どもたちも大人たちも、実は「良かれと思って」頑張った結果でもあること、本当の支援者は家族ひとりひとりの応援団であることも、多くの方に理解してほしいな…と考えました。(U様)
- 上映ですが、学校関係者の中では、スクールソーシャルワーカー（S S W）を配置している学校は少ない状況の中で、特に副校長などの管理職の方が、子どものS O Sに対する対応を決定し支援機関との調整に入ることが多くございますが、虐待の背景としての「子どもと家族に対する認識」や、S O Sに対する理解の違いも多くあるように感じます。
まずは多くの学校の先生方に見て頂きたいなあ、というのが実感でした。
虐待を生まない社会を創るイメージを持てる人が、多くなることを期待したいです。(U様)
- 全国の先生・教育委員会の皆様に伝えたい。
小学生・中学生時代に、学校の体育館・講堂・視聴覚教室で、クラス毎や学年毎や全校生徒と一緒に映画を観せてもらった。楽しかったり、勉強になった。記憶に残っている。是非、全国の小学校・中学校の生徒に観せてあげたい。救いを求めている子どもたちに、自分で生き延びるチャンスをあげたい。(K様)

ディスクレナタルによる自主上映会が実施されている場所

児童養護施設、児童相談所、NPO、市民団体、大学等学校、子育て支援の会、新聞社、行政、里親会など

※映画製作チーム「SunShine」のホームページより

<http://sunshine-movie.com/kamisama>

退所児童等アフターケア事業所「カモミール」のご紹介

カモミールは、社会的養護を受けて育った方々が地域で安心して暮らせるためのサポートをする場所です。

児童養護施設や里親家庭を卒業される前は、社会人準備セミナーや適職診断などを通して社会へ出るための準備のお手伝いを、そして社会へ出られた後は、同じ立場の方同士で交流して頂ける居場所（サロン）の提供や、夕食会を実施しています。もし実際に困ったことがあれば、個別相談でお話を伺い、職場定着支援、再就職支援、転居支援、病院受診、行政手続き等について、情報提供や必要なサポートを行っています。

今回の上映会は、地域で暮す皆さんと、社会的養護の問題を共有して一緒に考えたいとの思いから開催させて頂きました。子どもたちを理解し支える大人の輪が広がればと願っています。